

回復（反復）への願い：み顔の輝き

まず、詩編 80 編を祈りつつ、読んでみよう。「(万軍の) 神よ、わたしたちを連れ帰り、御顔の光を輝かせ、わたしたちをお救いください」という句が 3 回くりかえされています。この歌ではイスラエルが神に導かれる羊の群れ（2 節）、そして、「ぶどうの木」（9-17 節）と譬えられ、至聖所における神顕現（2 節）伝承も語られています。ポリュームからすれば、「葡萄の木」の譬えが最も印象的でしょう。

80 編には「エフライム、ベンヤミン、マナセ」が登場してきます。三支族ともヤコブの愛妻ラケルの子らであり、北イスラエルの主要三支族です。本文に 16 節に、「右の御手」と「子」（16 節）が登場しますが、二つの単語を繋げると「ベンヤミン」となります。使徒パウロはベンヤミン族の出身（初代王サウルもベニヤミン族）であり、この詩は苦悩の中にあつた北イスラエルへの哀歌のようなものかも知れません。三度の「回復させてください」に注目し、キルケゴールの『反復の概念』（単なる元通りになるというより、苦悩を経験しての質的に向上した「回復」です）を念頭に入れて、この詩編からのメッセージを「回復（反復）への願い：み顔の輝き」としています。

1. 神への呼び掛け

詩は神への呼び掛けで始まっています。「イスラエルの羊飼いであるお方、耳を傾けてください。あなたはヨセフを一つの群れのように導き（動名詞）、神殿のケルビムの中に住まう動名詞）お方です。輝き出てください」と願います。

3 節では、「救うために来てください」、「元に戻し、回復させてください」（*hăšibênū*）と祈ります。異なる表現ですが、「御顔」を輝かせてください（*wəhā'êr*）と祈り願います。そうすれば、わたしたちは救われるでしょう」と歌います。自分たちのこと以上に神が、神ご自身が輝くなら、その結果自分たちは救われるであろうというのです。

2. 御顔の輝き（4、8、20 節）

この神のみ顔の輝きのモチーフがリフレインとなって三度登場します。二回目、三回目には「万軍の」神と言われています。通常は「万軍の主（ヤハウエ）」と呼称されるのですが、5 節の呼び掛けが「万軍の主」となっているからか、一度目には「万軍の」がありません。「万軍の主」（ヤハウエ）が「神」（エロヒーム）となって、神名が変化、普遍化していく過程「ヤハウエ エロヒーム ツェバオート」があるのでしょうか。「(万軍の) 神よ、わたしたちを連れ帰り、御顔の光を輝かせ、わたしたちをお救いください」の句の

中に、「連れ帰る・回復」と「御顔を輝かせる」と「救い」とが一つに結び合わされています。「御顔を輝かせる」は、アロンの祝祷「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように」（民数記 8:24-26）を思い起させます。

3. ぶどうの木（9-17 節）

ぶどうの木は桜のように美しい花を咲かせず、杉のように木材にもなれず、日光を浴び、ひたすら実を結び、そこからワインが造られます。イスラエルの民はしばしば「ぶどうの木」に譬えられます。自分を太らせず、神と隣人に奉仕するのです。神は農夫のように場所を整え、根付かせ、これを守り育てます。ぶどうの木としてのイスラエルについてはホセア 10:1、14:5-8 → イザヤ 5:1-7 → エレミヤ 2:21、8:13 → エゼキエル 15:17 の流れを確認できます。

しかし、詩人は例の「いつまで」ですか、そして、「なぜ」（13 節）という間投詞によって、神がイスラエルを離れ、イスラエルも神を離れ、苦難にあることを嘆いています。ぶどうの木を守る石垣は破られ、未成熟な枝や実を摘み取られ、イノシシや獣が畑を食い荒らし、切り取られ、焼かれてしまうような有様であると嘆きます。

4. 万軍の神よ、立ち帰ってください（15 節）

神よ、連れ戻してくださいという祈りと共に、「神よ、立ち帰ってください」とも祈ります。「立ち帰る」（šūb）とは通常は、「回心する」「悔い改める」ことを意味する用語ですが、祈り手は、神が「立ち帰り」「こちらを向いて」「歩み出し、帰ってきてください」、あえて言えば、神よ「回心して」下さいという意味で祈っています。怒りから恵みへと方向転換してくださいと言うのです。「このぶどうの木を顧みてください」は「このぶどうの木を見て、訪問して、世話をしてください」となるのでしょうか?! 神はその右の手でぶどうの株を植え、責任をもって養い、支えてくださるように、そのみ手(単数形)が神の右手にいる人の上に、人の子(ベン アダム)の上に置かれて、その人を強めてくださるようにと願っています。神は、神が始めた善き業を完成へと導いて下さると言う「神の真実」への信頼です（フィリピ 1:6、Iヨハネ 1:9）。祈りはひたすら、その神、「あなた」に向けられています。この真実な神、立ち帰る神に立ち帰りましょう。